

みなさんは学校のトイレにどんなイメージを持っていますか。「学校のトイレは『汚い・臭い・暗い』の3K」（文部科学省で、あまり近づきたくない場所になっているのではないでしようか。実際、排泄行為が自分を恥ずかしいと感じて無理に我慢したり、からかわれるのが嫌でトイレにいけないようになったりするなど、子どもの健康面や精神面で無視できない問題が出てきています。そういったことから、改善や快適化が進んでいる家庭や公共の場のトイレとは異なり、学校のトイレはその多くが、時代の流れに取り残された空間として存在している」と言えそうです。

学校のトイレについて調べてみると、文部科学省が、平成23年度にトイレ改善の取組事例集を作成し、トイレを含めた学校の施設全般の、環境の向上や機能の改善に向けた取組を促していました。この事例集には、トイレ改修は、単に排泄の場所として、汚い・臭い等の問題を改善するだけでなく、学校という教育・生活の場全体の環境向上を図るものとして、改修の具体的な取組が紹介されています。また、トイレの改修の機会を、「きれいになったトイレを大切に使うこと、モノを大切にすることを学ぶ」次に使う人のことを考え、マ

## 学校のトイレ

ナーを身に付ける」清掃の大切さを知る」特に小学校低学年において、食事と排泄の関係や排せつの大切さを学習し、排泄行為が恥ずかしいことではないという意識を育てる」などの学習の機会にすることも有効であるとしています。

さらに、改修後の学校の声もいくつか報告しています。なかでも「明るいトイレになったことで生活面での落ち着きが見られるようになった」という声は、トイレ改修により、どの学校も目指すべきことだといえるのではないのでしょうか。

学校の「汚い・臭い・暗い」トイレが、明るく、快適な空間に変わる。そうなるには予算面など、クリアしなければならぬ問題がまだまだあります。トイレが変われば子どもたちの心も育ち、子どもたちが安心して学校生活を送れる。事例集を読み、そう確信しました。みなさんは学校のトイレ改修について、どう思われますか。

\*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

### ■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569